

井上ひさしが愛したCDと創作への活用

—劇中歌のオリジナル・メロディに注目して—

坂本 麻実子

INOUE Hisashi's Favorite CDs and Their Application to His Works

—from The Original Melodies of Songs in His Music Dramas—

SAKAMOTO Mamiko

E-mail : msakamot@edu.u-toyama.ac.jp

キーワード：井上ひさし、音楽劇、CD、ヴァイル、ロジャース

keywords : INOUE Hisashi, Music Drama, CD, Weill, Rodgers

1. 井上ひさしのCDコレクション

井上ひさし(1934-2010)が新国立劇場のために書き下ろした音楽劇5作品については、近年、井上が担当プロデューサーの古川恒一宛に送った手紙が出版され(井上2013, 2015)、創作過程をたどれるようになった。このうち、『紙屋町さくらホテル』(1997年10月22日初演)以外の4作品—「東京裁判三部作」と称される『夢の裂け目』(2001年5月8日初演)、『夢の泪』(2003年10月9日初演)、『夢の痂』(2006年6月28日初演)の3作品と『箱根強羅ホテル』(2005年10月9日初演)では、劇中歌は井上が自分で選んだ歌曲のメロディに作詞したものを用いており、筆者は「東京裁判三部作」の劇中歌の創作過程を考察している(坂本2014)。井上は「東京裁判三部作」の劇中歌にクルト・ヴァイル Kurt Weill (日本ではワイルとも表記する。1900-1950)のメロディを集中的に選んだ。それが可能だったのは、古川が回想しているように、井上が「クルト・ワイルの全楽譜掲載の本や貴重な音源テープを所有していた」(井上2013:50)からである。もともと音楽が好きな井上は自宅に大量のCDを所蔵していた。市川市文化振興財団の小坂裕子は次のように報告している。

書斎にはたくさんのCDがいくつかのラックの中に入っていて、もっとも目についたのはガーシュウィンで、「ラプソディー・インブルー」が入った

ものだけで何枚もありました。ラフマニノフのピアノコンチェルト、クルト・ワイルの「三文オペラ」などなど。そして美空ひばり、ちあきなおみも大好きと奥様は笑いながらお話ししてくださいました。「てこな・ミュージック・ジャーナル」2010年11月号)。

井上のCDコレクションにはやはり『夢の裂け目』で多用したヴァイル(ワイル)の「三文オペラ」が入っていた。『夢の痂』執筆時にも井上は古川に「音源CD、全部揃っております・・・いつでもお渡しできます。月曜の夜にお返しいただければ大丈夫です。」(井上2013:339)と書き送ったが、CDの中には美空ひばり(1937-1989)の「上海」(『夢の痂』劇中歌「天の贈り物」原曲)が入っていただろう。「東京裁判三部作」ではガーシュウィン(日本ではガーシュインとも表記する。1898-1937)、ラフマニノフ(1873-1943)、ちあきなおみ(1947-)のCDは使われなかったが、井上は好みのCDを収集する一方、劇作家としてCDコレクションを創作に利用することも忘れなかった。

井上のCDラックは彼の宝箱であり作劇の道具箱でもあった。現在、CDラックの中身は非公開であるが、古川宛の手紙の中に井上が創作用に選んだCDに関する記述を拾い、そこから現物を推察することは可能だろう。その上でCDコレクションの活用という観点から井上の音楽劇の創作法の一部を明らかにしてみたい。

2. ヴァイルの CD

井上は『夢の裂け目』の構想段階で劇中歌の原曲候補となるヴァイル・メロディ10曲（表1の①から

⑩まで）を古川に提示した（井上2013:49-50）。実際には10曲中3曲は未使用に終わり（表1の⑤⑥⑨）、代わりに執筆中に新たに5曲を選び（表1の⑪から⑮まで）、最終的には12曲のヴァイル・メ

表1. 『夢の裂け目』におけるヴァイル・メロディ&劇中歌とCD収録状況

ヴァイル・メロディ&『夢の裂け目』劇中歌 〔 〕内は作品名 ()内は『夢の裂け目』での使用場面	CD収録状況			
	レーニャ盤	オッター盤	レンパー盤A	レンパー盤B
①マック・ザ・ナイフ The Ballad of Mack the Knife (Moritat) [D] [裂] マック・ザ・ナイフ(カーテンコール)	○			○
②ビルバオ・ソング Bilbao Song [H] [裂] 紙芝居ソング(I-2, 3)	○	○	○	
③スラバヤ・ジョニイ Surabaya-Johnny [H] [裂] スラバヤジェニイ(I-5)	○	○	○	
④アラバマ・ソング Alabama Song [M] [裂] 学問ソング(II-6)	○			○
⑤セプテンバー・ソング September Song [K] [裂] 使用予定→未使用	○		○	
⑥マイ・シップ My Ship [L] [裂] 使用予定→未使用		○	○	
⑦サガ・オブ・ジェニイ Saga of Jenny [L] [裂] しゃべる男(I-1, II-9)	○			
⑧スピーク・ロウ Speal Low [O] [裂] 父さん(II-8)	○	○		○
⑨シング・ミー・ノット・ア・バラッド Sing Me Not A Ballad [F] [裂] 使用予定→未使用, [痲] 使用予定→未使用	○		○	
⑩ソロモン・ソング Solomon Song [D] [裂] 伝道士の娘のワルツ(I-4)				○
⑪バルバラ・ソング Barbara Song [D] [裂] 柳橋ソング(I-3)	○		○	
⑫デン・ヴィー・マン・ジッヒ・ベテット Denn Wie Man Sich Bettet [M] [裂] 日常生活のたのしみのブルース(II-8)	○			○
⑬人生は一度だけ One Life to Live [L] [裂] ズキン!(I-2, 5, II-6)		○		
⑭グリーン・アップ・タイム Green-Up Time [LL] [裂] フッー人行進曲(I-5, II-6)	○			
⑮ハバナ・ソング =あら, 考えてよ, ヤーコブ・シュミット Havana Song [D] =Oh, think it over, Mr. Jakob Schmidt (Anhang) [M] [裂] 夢の裂け目(II-7)	○		○	

表 2. 『夢の泪』と『夢の痂』におけるヴァイル・メロディ&劇中歌とCD収録状況

ヴァイル・メロディ&『夢の泪』、『夢の痂』劇中歌 []内は作品名 ()内は『夢の裂け目』での使用場面	CD 収録状況			
	レーニャ盤	オッター盤	レンパー盤A	レンパー盤B
①『イエスマン』No. 6 “Der Jasager” No.6 [泪] わたし、判らない (I-2, 3)				
②『イエスマン』No.10 “Der Jasager” No.10 (泪) 朝の唄 (II-6, 7)				
③私は異邦人 I'm A Stranger Here Myself [L] [泪] 酒のしずくは夢の泪 (I-2)		○		○
④セックスの膚のバラード Ballade von der Sexuellen Hörigkeit [D] [泪] 新橋ワルツ (I-3)				○
⑤夜勤シフトの相棒に Buddy on the Nightshift [泪] 相棒ソング (II-6)		○		
⑥『七つの大罪』よりNo.2 高慢, No.5 姦淫, エピローク “Die Sieben Todsünden”~No.2 Stolz, No.52 Unzucht, Epirog [痂] 使用予定→未使用		○		
⑦マイ・シップ My Ship [L] [痂] 使用予定→未使用, ※[裂]でも使用予定→未使用		○	○	
⑧ナナの歌 Nana's Lied [痂] 使用予定→未使用		○		○
⑨難儀の歌 Das Kied von der harten Nuss [H] [痂] 使用予定→未使用		○		
⑩もうあんたを愛してはいない Je ne t'aime pas [痂] 使用予定→未使用		○		○
⑪愚かな心 Fookishi Heart [O] [痂] 使用予定→未使用	○	○		
⑫シッケルグルーバー Schickelgruber [痂] 使用予定→未使用		○		
⑬『イエスマン』No.2, 3, 5, 13 “Der Jasager” No.2, 3, 5, 13 [痂] 使用予定→未使用				○
⑭西風 Westwind [O] [痂] 使用予定→未使用				○
⑮デン・ヴィー・マン・ジッヒ・ベテット Denn Wie Man Sich Bettet [M] [痂] 日常生活のたのしみのブルース (I-4) ※[裂]日常生活のたのしみのブルース (II-8) 再使用	○		○	

備考：表1と2の作品名は次のとおり。

[D] 三文オペラ Der Dreigroschenoper, [F] フローレンスの熱血漢 The Firebrand of Florence, [H] ハッピーエンド Happy End, [K] ニッカ・ボッカ・ホリディ Knickerbocker Holiday, [L] 闇の女 Lady in the Dark, [LL] ラブ・ライフ Love Life, [M] マハゴニー市の興亡 Aufstieg und Fall der Stadt Mahagonny, [O] ヴィーナスのワン・タッチ One Touch of Venus, [裂] は『夢の裂け目』, [泪] は『夢の泪』, [痂] は『夢の痂』をあらわす。ヴァイル・メロディ収録CDは次のとおり。

レーニャ盤：ロッチ・レーニャ「ヴァイル ベルリン&アメリカン・シアター・ソングス～ヴァイル作品集」(ソニーレコード, SRCR-1884, 1997)

オッター盤：アンネ・ゾフィー・フォン・オッター「スピーク・ロウ オッター・シングズ・クルト・ヴァイル」(ポリドール, POCG-1805, 1994)

レンパー盤A：ウテ・レンパー「ウテ・レンパー シングス・ヴァイル」(クラウン, TEC-1011, 1989)

レンパー盤B：ウテ・レンパー・シングス・クルト・ヴァイル (ユニバーサル・ミュージック, POCL-3160, 1993)

ロディを使った。台本執筆中の井上の手紙には CD に関して次のような記述がある。

(a) (筆者注. 表1の⑬「人生は一度だけ」は) まったく知られていません。現在のところアンネ・ゾフィー・フォン・オッターというドイツのメゾソプラノ歌手が『スピーク・ロウ』というタイトルの CD (ポリドール POCG) で唄っているだけです。もしお要りならもちろんお貸しいたします (2001年3月29日第2便。井上2013:109-110)。

(b) ロッテ・レーニャ (ワイル夫人) の 'Saga of Genny' (筆者注. 表1の⑦) の CD もお送りしておきます。もう下手くそで、こんどの出演者の方がたぶん上手なくらいです。ただ、ごまかしが下手で作詞・歌譜どおりなので (聞かたび不快になりましたが), しかし大いに参考にする時がありそうなので、フォン・オッターの方は、テープにコピーなさせて、お手数ですが、ご返送くださいますように (2001年3月29日第3便。井上2013:111)。

(c) (筆者注. 表1の⑩「ソロモン・ソング」について) ウテ・レンパーも唄っていますが、そして彼女の正しい速度だろうと思いますが、栗山さんと宇野先生 (筆者注. 演出家栗山民也と作曲家宇野誠一郎) でご相談の上、ワルツの感じが出るように少し速めていただければ、楽子さん (筆者注. 女優田根楽子) も少し楽にお歌いになれるはず (2001年4月8日第1便。井上2013:131)

(d) 'ANHANG' (筆者注. 表1の⑮) の音源は、すぐお送りします。たくさんの女性歌手が歌っていますが、代表的なウテ・レンパー (十一番目の「あら、考えてよ、ヤーコブ・シュミット」) とロッテ・レーニャ (十六番目の「ハバナ・ソング」) のをお送りします。

クルト・ワイルは使い回しの名人で、ひとつの曲を、「三文オペラ」では『ハバナ・ソング』として使い、「マハゴニー」では『あら、考えてよ、ヤーコブ・シュミット』にして使っています (2001年4月24日第1便。井上2013:165)

以上の記述から、井上はロッテ・レーニャ Lotte Lenya (1898-1981), アンネ・ゾフィー・フォン・オッター Anne-Sofie von Otter (1955-), ウテ・レンパー Ute Lemper (1963-) の3人の女性歌手によるヴァイルの CD を利用していたことがわかる。

(a) によればオッターが歌い『スピーク・ロウ』というタイトルでポリドールから発売された CD な

ら「スピーク・ロウ オッター・シングズ・クルト・ワイル」(ポリドール, POCG-1805, 1994) が該当する。「人生は一度だけ」は六番目に収録されている。

レーニャは度々夫の作品を吹き込んでいるが (スポト-1992:512), (d) により十六番目に「ハバナ・ソング」を収録した CD なら「ヴァイル ベルリン&アメリカン・シアター・ソングス~ヴァイル作品集」(ソニーレコード, SRCR-1884, 1997) が該当する。この CD は (b) で言及した 'Saga of Genny' も三番目に収録している。

(d) によればレンパーが十一番目に「あら、考えてよ、ヤーコブ・シュミット」を収録した CD は「ウテ・レンパー シングス・ヴァイル」(クラウン, TEC-1011, 1989) 該当する。ただしこの CD は (c) で言及した「ソロモン・ソング」を収録していない。レンパーが歌う「ソロモン・ソング」は「ウテ・レンパー・シングス・クルト・ワイル」(ユニバーサル・ミュージック, POCL-3160, 1993) の四番目に収録されている。なお、井上は「ハバナ・ソング」=「あら、考えてよ、ヤーコブ・シュミット」の旋律に歌詞をつけてタイトルソング「夢の裂け目」を作った。

次に井上を選んだヴァイル・メロディ (表1の①から⑮まで) についてレーニャ盤, オッター盤, レンパー盤 A (「ウテ・レンパー シングス・ヴァイル」), レンパー盤 B (「ウテ・レンパー・シングス・クルト・ワイル」) の収録状況を見ると次のとおりである。

レーニャ盤収録曲	: ①②③④⑤ ⑦⑧⑨ ⑪⑫⑬⑭⑮
オッター盤収録曲	: ②③ ⑥ ⑧ ⑬
レンパー盤A収録曲	: ② ⑤⑥ ⑨ ⑪ ⑮
レンパー盤B収録曲	: ① ④ ⑧ ⑩ ⑫

井上が『夢の裂け目』に選んだヴァイル・メロディ 15曲は彼が言及した4枚のCDのうちのどれかに収録されていた。その中でレーニャ盤は井上の好みではないが「大いに参考にする時がありそう」というだけに劇中歌の原曲13曲を収録している。特に「サガ・オブ・ジェニー」(『夢の裂け目』オープニングとフィナーレで歌う「しゃべる男」原曲) と「グリーン・アップ・タイム」(『夢の裂け目』第1幕フィナーレで歌う「フツー人行進曲」原曲) を収録しているのはレーニャ盤だけである。ただしレーニャ盤は「人生は一度だけ」や「ソロモン・ソング」を収録していないので、井上は前者についてはオッター

盤を、後者についてはレンパー盤 B を選んだのだろう。

3. 繰り返し使われたヴァイルの CD

井上の音楽劇ではヴァイル・メロディは「東京裁判三部作」のみに選ばれ、それほどまでにヴァイルは井上にとって特別な作曲家であった。井上が『夢の裂け目』に選んだレーニャ盤、オッター盤、レンパー盤 A、レンパー盤 B はコレクションの中でもとっておきの CD と言えるだろう。したがってこの 4 枚は『夢の泪』や『夢の痂』でも繰り返し使われている。そこで表 2 では『夢の泪』と『夢の痂』に選ばれたヴァイル・メロディについて前述の 4 枚の CD の収録状況を調べてみた。

『夢の泪』では井上は構想段階で劇中歌に使用予定のヴァイル・メロディを古川に提示することはなかったが、最終的にはヴァイル・メロディ 5 曲を使った(表 2 の①から⑤まで)。そのうち井上は「私は異邦人」の旋律に歌詞をつけてタイトルソング「酒のしずくは夢の泪」を作った。『夢の痂』では井上は構想段階でヴァイル・メロディ 9 曲を提示した(表 2 の⑥から⑭まで、井上 2013: 289-290)。ヴァイル・メロディは『夢の裂け目』ではすべてオペラやミュージカルから選ばれたが、『夢の泪』と『夢の痂』ではピアノ伴奏による歌曲(表 2 の⑤⑧⑩⑫)も選ばれた。ただし『夢の痂』では井上は執筆の大幅な遅れからヴァイル・メロディに基づく新曲を断念せざるを得ず、『夢の裂け目』の劇中歌「日常生活のたのしみのブルース」(原曲は「デン・マン・ヴィー・ジッヒ・ベテット」)を『夢の痂』でも再使用することになった(表 2 の⑮)。「夢の痂」というタイトルソングは日の目を見なかった。当初、井上は未使用のヴァイル・メロディを 9 曲も選んでいただけにこの結果は残念である。それでも井上を選んだヴァイル・メロディの収録状況を使用の有無を問わずに見てみよう。

レーニャ盤収録曲 :	⑪	⑮
オッター盤収録曲 :	③	⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
レンパー盤 A 収録曲 :	⑦	
レンパー盤 B 収録曲 :	③④⑤⑥	⑧ ⑩ ⑭⑮

『夢の裂け目』に選んだヴァイル・メロディはレーニャ盤の収録曲が多かったが、『夢の泪』と『夢の

痂』に選んだヴァイル・メロディはオッター盤が 9 曲を収録し、次いでレンパー盤 B が 8 曲を収録している。しかし「イエスマン」No.6 と 10 (表 2 の①②) と未使用に終わった No.2, 3, 5, 13 (表 2 の⑬) はどの盤にも収録されていない。井上は古川に「ワイルの教室オペラ(筆者注。「イエスマン」を指す)の音源化はそう急がなくてもいいと思います。自主カンヅメのときに楽譜を持って行きます」(井上 2013: 193) と書き送ったことから考えて(「自主カンヅメ」とは執筆に集中するため「東急ステイ四谷」に籠もることを指す)、「イエスマン」については井上は楽譜を持っているが CD を持っていなかったのだろう。その場合、井上は楽譜の「音源化」を依頼している。井上の言う音源化とは『箱根強羅ホテル』におけるチャイコフスキーの歌曲の事例が参考になる。『箱根強羅ホテル』では井上はロシアの作曲家チャイコフスキー(1840-1893)の歌曲を使おうと考えて全歌曲の楽譜を入手し⁽¹⁾、その楽譜を音楽スタッフの一員でピアニストの朴勝哲に渡して彼のピアノ演奏を MD に録音し、それを聞いて原曲候補を選んでいった(井上 2015: 214, 218, 257-258)。「イエスマン」の音源化もチャイコフスキーの歌曲のやり方に倣ったと推測される。

4. ロジャースの CD, その他

『箱根強羅ホテル』では井上は構想段階で劇中歌の使用予定曲を古川に提示したとき、楽譜と音源の所蔵の有無も連絡した(井上 2015: 257-259)。その中で井上が楽譜も CD も所有していたのはブロードウェイ・ミュージカルの作曲家リチャード・ロジャース Richard Rodgers (1902-1979) がローレンツ・ハート Lorenz Hart (1895-1943) と組んだ初期の歌曲のうち次の 5 曲であり、5 枚の CD を選んだ。

ドーン・アプショウ Dawn Upshaw (1960-) が歌う「ザウ・スエル」(表 3 の①)の CD は「君の瞳のきらめき シングス・ロジャース&ハート」(ワーナーミュージックジャパン, WPCS-10244, 1999) が該当する。マット・デニス Matt Dennis (1914-2002) が歌う「ミミ」(表 3 の②)の CD は「マット・デニス ロジャース&ハートを歌う」(BMG ファンハウス, BVCJ-7463, 1997) が該当する。「小さなホテル」(表 3 の③)の CD は、井上好みのブロードウェイ・オリジナルキャストによる「オン・ユア・

表3. 『箱根強羅ホテル』におけるロジャース・メロディ&劇中歌

- ①ドーン・アップショウ Dawn Upshaw：ザウ・スエル Thou Swell [C]
 ～君の瞳のきらめき シングス・ロジャース&ハート
 ワーナーミュージックジャパン, WPCS-10244, 1999
 [箱] 日本料理をめしあがれ (I-3)
- ②マット・デニス Matt Dennis：ミミ Mimi [L]
 ～マット・デニス ロジャース&ハートを歌う
 BMG ファンハウス, BVCJ-7463, 1997
 [箱] 未使用→[私] 耳 (プロローグ, エピローグ)
- ③「オン・ユア・トーズ On Yoer Toes」より小さなホテル There's A Small Hotel
 ～On Your Toes (Cast Recording) Verve, 1997
 [箱] 未使用→[ロ] サハリン (I-6)
- ④アニタ・オデイ Anita O'Day：五ドルもうけた I've got Five Dollers [A]
 ～アニタ・オデイ・スウィングス・コール・ポーター+ロジャース&ハート・ウィズ・ビリー・メイ
 ユニバーサル・ミュージック・ジャパン, POCJ-1914, 1990
 [箱] 未使用
- ⑤「ザ・ガールフレンド The Girlfriend」より「ザ・ガールフレンド」[G]
 [箱] まかふしぎなパジャマ (I-2)

備考：[C] は A Connecticut Yankee, [L] は Love Me Tonight, [A] は America's Sweet Heart, [G] は The Girlfriend。[C] [A] [G] はミュージカル, [L] は映画のタイトルである。

表4. 『箱根強羅ホテル』におけるロジャース以外のメロディ&劇中歌

- ①チャイコフスキー歌曲集 (MD録音による)
- (1) なぜ? (op.6-5)
 [箱] 未使用→[ロ] なぜか・・・ (I-8)
- (2) 子守唄 (op.16-1)
 [箱] 鬼ヶ島の子守唄 (I-3, II-5)
- (3) 春の始めの頃だった (op.38-2)
 [箱] みんな人間よ (I-1, II-5)
- (4) ひとりぼっち (op.6-1)
 [箱] 未使用→[ロ] ボードビルな哀悼歌 (II-15)
- (5) ほんのちょっとの間だけ (op.38-4)
 [箱] 未使用
- ②「ひょっこりひょうたん島」, 「ブンとフン」劇中歌 (作詞：井上ひさし, 作曲：宇野誠一郎, 井上所有の音源による)
- (1) なぞなぞソング [ひ]
 [箱] 箱根八里ソング (II-4)
- (2) グッド・オールド・デイズ [ひ]
 [箱] ウォッカソング (I-1)
- (3) 立志伝中の人物 [ひ]
 [箱] 未使用→[痂] 未使用
- (4) 盗みましようよ [ブ]
 [箱] 未使用→[痂] 未使用
- ③ドイツ民謡集 7～ドイツ学生の歌 (徳間ジャパンコミュニケーションズ, TKCC-15127, 1998) より
- (1) あの下の低地には Drunten im Unterland
 [箱] 未使用
- (2) 酒宴の歌 Festgelage
 [箱] 暗号歌 (I-2)
- ④ベーターヴェン全集第6巻 歌曲・民謡 (講談社, KCB56-68, 1990) より
- (1) わたしの思い人 Oh, thou art the lad (スコットランド民謡), WoO. 108-11
 [箱] 未使用
- (2) 悲しくも不幸な季節 Sad and luckless was the season (アイルランド民謡), WoO. 153-6
 [箱] 未使用
- (3) ジュディ, 類いまれなお前は Judy, lovely, matchless creature (アイルランド民謡), WoO. 153-19
 [箱] 未使用→[痂] 主務官の仕事は (I-3)
- (4) ああ, 聖なる御方 O sanctissima (シチリア民謡), WoO. 157-4
 [箱] 困ったときには (II-4)
- (5) ゴンドラの歌 La Gondolett (ヴェネチア民謡), WoO. 157-12
 [箱] 未使用
- (6) ああ, 川よ, 川 Ach Bächlein, Bächlein (ロシア民謡), WoO. 158a-14
 [箱] 未使用
- (7) 森へ, いちごを摘みに Unsere Mädchen gingen in den Wald (ロシア民謡), WoO. 158a-15
 [箱] 未使用→[私] おそらく・・・ソング (I-3)

備考：[ひ] はひょっこりひょうたん島, [ブ] はブンとフンを示す。

表3と4の [箱] は箱根強羅ホテル, [痂] は夢の痂, [私] は私はだれでしょう, [ロ] ロマン스를示す。

トーズ」(Verve, 1997) が該当するのではないか⁽²⁾。アニタ・オディ(1919-2006) Anita O'Day が歌う「五ドルもうけた」(表3の④)のCDは「アニタ・オディ・スウィングス・コール・ポーター+ロジャース&ハート・ウィズ・ビリー・メイ」(ユニバーサル・ミュージック・ジャパン, POCJ-1914, 1990)が該当する。オディがロジャースとカップリングして吹き込んだコール・ポーター Cole Porter (1892-1964)もブロードウェイ・ミュージカルの作曲家で、一時期、井上は『箱根強羅ホテル』にポーター・メロディを使うことも考えていたが(井上2015:214),それはオディ盤からの発想であろう。なお、井上は台本執筆中に「ザ・ガールフレンド」(表3の⑤)を追加し、楽譜とCDを古川に送った(井上2015:312)⁽³⁾。以上5曲のうち実際に使用されたのは「ザウ・スエル」,「ザ・ガールフレンド」の2曲である。

ロジャースの楽譜については、井上は手紙に「THE BEST OF R+H」,「ミュージカル・アンソロジー」と記している。前者は「THE BEST OF Rodgers & Hart」(表3の⑤をのぞく4曲収録),後者は「Rodgers and Hart A Musical Anthology」(表3の全5曲収録)で、2冊ともハル・レナード Hal Leonard 社から出版された。

表4には『箱根強羅ホテル』の劇中歌に使用されたヴァイル以外のメロディを挙げる。チャイコフスキー歌曲集(表4の①)の音源は前述のようにMD録音である。創作用にわずか5曲を選ぶのに井上は全歌曲の楽譜を入手して録音する手間をかけたのであり、さらに劇中歌に使用されたのは「子守唄」,「春の始めの頃だった」の2曲だけであった。

井上は放送作家時代に手掛けた『ひょっこりひょうたん島』と『ブンとフン』からも劇中歌4曲を選んだ(表4の②)。すべて作詞は井上ひさし,作曲は宇野誠一郎)。そのうち、井上は楽譜については「なぞなぞソング」のみ、音源については4曲すべて所蔵というが、一般向けには『ひょっこりひょうたん島』も『ブンとフン』も劇中歌はごく一部がCD化されているにすぎない。それでも『ひょっこりひょうたん島』の「グッド・オールド・デイズ」と「立志伝中の人物」は「ひょっこりひょうたん島ヒット・ソング・コレクション(オリジナル版)」(ソニーミュージックハウス, MHCL-246~247, 2003)に収録されている。また「なぞなぞソング」の楽譜は

『ひょっこりひょうたん島6 海賊キッドの宝の巻(上)』(ちくま文庫, 1991)に、「グッド・オールド・デイズ」の楽譜は『ひょっこりひょうたん島9 魔女リカの巻(下)』(ちくま文庫, 1991)に収録されている。『ブンとフン』劇中歌「盗みましようよ」は「宇野誠一郎作品集II」(ウルトラヴァイズ, CDSOL-1099, 2004)に収録されている。以上4曲のうち実際に使用されたのは「なぞなぞソング」,「グッド・オールド・デイズ」の2曲である。

「ドイツ民謡集7~ドイツ学生の歌」(表4の③, 徳間ジャパンコミュニケーションズ, TKCC-15127, 1998)からは井上は2曲を選び(楽譜は所蔵せず),このうち「酒宴の歌」のメロディに歌詞をつけて「暗号歌」を作った。「酒宴の歌」を聞けば「暗号歌」の「タララン」と「タララ」という合いの手は原曲のものをそのまま生かしたことがわかる(「暗号歌」井上の手書き楽譜参照。井上2015:198)。

「ベートーヴェン全集第6巻」(表4の④, 講談社, KCB56-68, 1990)に関して、日本ではこのCDの発売によってベートーヴェンの編曲民謡をまとめて聞けるようになった。井上は早々にこのCD全集を入手して(井上2009:141)すでに『太鼓たたいて笛ふいて』(2002年7月25日こまつ座初演)では1曲、『円生と志ん生』(2005年2月5日こまつ座初演)では3曲を劇中歌に使っていた(坂本2013)。引き続き『箱根強羅ホテル』でも7曲も選んだが、実際に使ったのは「ああ、聖なる御方」1曲のみであった(楽譜は所蔵せず)。

表3と4によれば、『箱根強羅ホテル』では未使用に終わっても『箱根強羅ホテル』以後に初演された音楽劇で劇中歌に使われたメロディが散見する。表3のロジャースでは「ミミ」が『私はだれでしょう』(2007年1月22日こまつ座初演)で使われ、劇中歌のタイトルも「耳」とした。「小さなホテル」は『ロマンス』(2007年8月3日こまつ座&シス・カンパニー初演)で「サハリン」となった。表4のうち、チャイコフスキー歌曲は『ロマンス』(チャイコフスキーと親交があった劇作家アントン・チェーホフ(1860-1904)を主人公にする)に2曲使われ、「なぜ?」は「なぜか・・・」となり「ひとりぼっち」は「ボードビルな哀悼歌」になった。ベートーヴェンでは「ジュディ、類いまれなお前は」は『夢の痂』(2006年6月28日新国立劇場座初演)で「主務官の仕事は」になり(井上の手書き楽譜参照。井上

2013:274),「森へ、いちごを摘みに」は『私はだれでしょう』で「おそろく・・・ソング」になった。もちろん、『箱根強羅ホテル』で使わなかったメロディを別の音楽劇で使おうと図っても未使用に終わったケースもある。「立志伝中の人物」(ひょっこりひょうたん島)と「盗みましようよ」(ブンとフン)は『箱根強羅ホテル』同様、『夢の痂』でも未使用に終わった。

5. CDは音楽劇創作のツール

『夢の裂け目』以後、井上は「劇中歌リスト」を作成して劇中歌のオリジナル・メロディを公表したが、劇中歌リストは彼の選曲作業の結果だけを示すものである。一方、井上の手紙によれば彼は構想段階で「音楽設計」(井上2015:218)と称して劇中歌のオリジナル・メロディの候補曲の楽譜やCDを古川に提示した。その際、井上は候補曲を多めに選んでプールしておき、台本を執筆する中でメロディを取捨選択しながら言葉をあてはめて劇中歌を作る(井上は「作詞頭」になると言う。「作詞頭」とは音楽劇のセリフを書くときの「台詞頭」に対する井上独特の言い方である。井上2015:320)。さらに必要であれば新たにオリジナル・メロディを探し出して劇中歌を作る。せっかく選んでも未使用に終わるメロディもあるが、その中から井上は次回以降の音楽劇の使用予定曲に選び劇中歌を作ることもあった。このように劇中歌の完成までには大変な労力と紆余曲折があることが明らかになった。そして、劇中歌のオリジナル・メロディに使用された楽曲のうちヴァイル、ロジャース、ドイツ学生歌、ベートーヴェン編曲の西洋民謡は井上のCDコレクションからの選曲であること、さらにヴァイルとロジャースについては楽譜も所蔵していたこと、チャイコフスキーについては全曲の楽譜を入手し、録音してから選曲したことが確認できた。

井上にとってCDは音楽劇の創作に欠かせないツールであり、彼は職人が愛用の道具箱から作業に叶った道具を選ぶようにCDラックから最適の一枚を選び劇中歌を作ったと想像される。しかし、新国立劇場は「“唄を歌う”という前提で俳優を選んでいない」(井上2013:172)ので古川は作者と役者たちの間に立って苦勞することになった。歌が専門ではない役者たちには、井上がヴァイルのオペラやミュージカルばかり選んだり、チャイコフスキーの芸術歌

曲とロジャースのミュージカル・ナンバーとドイツの学生歌とベートーヴェン編曲の西洋民謡をワン・ステージに詰め込むのはあまりにもマニアックな選曲であった。『箱根強羅ホテル』では井上自身が「またもや稽古場を地獄にしてみました」(井上2015:376)と言い、扇田昭彦は「俳優たちの演技と歌はまだ十分に仕上がっていないという印象を受けた」と初演を評した(井上2010:732)。これは遅筆堂を自称する井上の台本と劇中歌の完成が遅れて稽古時間が少なかったのが直接の原因ではあるが、「地獄のナンバー」はCD収集家であり、そのCDを活用する劇作家でもある井上の音楽劇を役者が演じる时候についてまわる宿命的な課題なのである。ちなみに「東京裁判三部作」は2010年になって再演されたが『箱根強羅ホテル』の上演は初演のみで途絶えている。

注.

- (1) チャイコフスキーの全歌曲の楽譜が必要となると日本の出版社の楽譜では用が足りず、ユルゲンソン版の歌曲集を入手する必要がある。ユルゲンソン Jurgenson, Peter Ivanvich (1836-1903) はロシアの出版業者でチャイコフスキーと親交があった。
- (2) 井上は「ミュージカルのブロードウェイ^{オリジナル・キャスト}初演出演者レコードをせっせと集め」(井上1992:113)ていたという。
- (3) 「ザ・ガールフレンド」についても井上は所蔵の楽譜とCDを古川に送っていた(井上2015:312-313)。歌手やレーベルの情報がないためにCDは特定できなかったが、参考までに「Rodgers & Hart Volume 1」(Original Cast Recording, Pearl, 2001)は「ザ・ガールフレンド」を収録している。

参考文献.

- 井上ひさし (1992)「ブロードウェイ仕事日記」『遅れたものが勝ちになる』(エッセイ集6, 中公文庫)収録, 107-157頁, 東京:中央公論社
- 井上ひさし (2009)「どっちも好き」『ふふふ』(講談社文庫)収録, 138-142頁, 東京:講談社
- 井上ひさし (2010)『井上ひさし全芝居 その七』東京:新潮社
- ※『夢の裂け目』『夢の泪』『夢の痂』『箱根強羅ホテル』収録。

井上ひさし (2013) 『初日への手紙 「東京裁判三部作」のできるまで』東京：新潮社

井上ひさし (2015) 『初日への手紙Ⅱ 『紙屋町さくらホテル』『箱根強羅ホテル』のできるまで』東京：新潮社

坂本麻実子 (2013) 「井上ひさしとモーツァルトー『太鼓たたいて笛ふいて』に残るオペラへの見果てぬ夢ー」『富山大学人間発達科学部紀要』第7巻第2号, 3月, 103-172頁

坂本麻実子 (2014) 「ヴァイル・メロディが井上ひさしの音楽劇にもたらしたものー「東京裁判三部作」の劇中歌からー」『桐朋学園大学研究紀要』第40集, 10月, 59-73頁

スポッター, ドナルド, 谷川道子訳 (1992) 『ロッテ・レーニャ ワイマール文化の名花』東京：文藝春秋

(2016年5月20日受付)

(2016年7月11日受理)